

新作能「福山」について

2016年の福山市市制施行100周年を記念して創作初演された能です。福山城を舞台に、初代藩主水野勝成、幕末の藩主阿部正弘が現代に姿を現し、その志を人々に伝え、さらに、福山を守護する朱雀神が天空を舞い、福山の未来、若者たちの行く末を祝福する物語です。



前シテ (水野勝成公)

なたへ渡り給へ、まずこの城は、北に圍き守りをなし、南へ開き松寿長久と願ひて、鉄覆山朱雀院久松城と名付け給ふ。また芦田の川の東南なれば、葦陽城とも申すなり。同じげに長閑なる福の山、おげに長閑なる福の山、四神相應の地なれば、芦田の流れ海にあひ、あれに名高き、明王院五重の塔、天に映え、単戸千軒にぎわひたり。香咲く田尻の里、日東第一の形勝と、杵えられたる仙酔鳥、はるか沼隈を巡れば、藻塩焼く、煙たなびく遠芳湾、国々所は多けれど、春山福海まことに、福の山とぞ申すなり。不思議やさて



後シテ (朱雀神)

逢ひ、恵み豊かに千秋万歳千秋万歳、福山の久しき代々こそめでたけれ



シテツレ (阿部正弘公) と花の精

【お知らせ】

福山城築城400年記念 特別能公演

と き：2022年10月29日(土) 午後2時開演

場 所：ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ

番組

能「翁」 翁 大島輝久 三番叟 野村萬斎  
頭取 大倉源次郎 大鼓 亀井広忠 笛 杉信太郎 他

新作能「福山」

シテ(水野勝成) 大島政允 後シテ(朱雀神) 大島輝久  
シテツレ(阿部正弘) 大島衣恵  
笛 森田保美 小鼓 久田舜一郎  
大鼓 谷口正壽 太鼓 梶谷英樹 他



福山城築城400年記念



能楽交流コンサート

第10回 福山藩江戸藩邸

会 場：誠之小学校 体育館 東京都文京区西片2-14-6

日 時：2022年4月3日(日) 11:00~12:40

【新型コロナウイルス感染対策のため、下記の事項にご協力ください。】

- ・体調の悪い方のご入場はご遠慮下さい。・入場時に手指の消毒をお願いします。
- ・館内では不織布マスク着用をお願いします。

お話「福山藩阿部家と西片町」 講師 阿部正実

福山藩の初代藩主水野勝成は徳川家康の従弟でした。水野家が5代で断絶後、徳川の信頼が厚かった阿部家が西国の外様に対する守りのため明治維新に至るまで10代にわたり福山藩主を務めました。

現在の東京都文京区西片は徳川の幕閣を務めた阿部家の江戸藩邸跡で、現在も福山ゆかりの誠之小学校などがあります。2018年には文京区と福山市は「相互協力に関する協定」を結びました。

徳川家康が今川の人質になった時代から江戸幕府、開国、明治維新、そして戦前戦後にわたる福山と西片相互の繋がりについての興味深いお話です。

能囃子コンサート 【番組】

- ・紙芝居「福山」 大島衣恵 大島薫子
- ・居囃子「福山」 シテ 大島政允
- ・お囃子レクチャー
- ・舞囃子「神楽」 シテ 大島衣恵
- ・舞囃子「福山」 朱雀 大島輝久 阿部正弘の精 大島伊織  
地謡 大島衣恵 大島薫子
- 【囃子方】 森田流 笛方 森田保美 大倉流小鼓方 久田舜一郎  
石井流大鼓方 谷口正壽 金春流太鼓方 梶谷英樹

主催／喜多流大島能楽堂 広島県福山市光南町2-2-2 Tel/Fax 084-923-2633

<http://www.noh-oshima.com> osimano@orange.ocn.jp

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会

後援／東京都文京区 文京区西片町会 福山文化連盟 福山喜多会

協力／誠之学友会

能と喜多流

**田 楽**  
豊穡を願う舞が芸能化し、貴族の間でも流行

**散 楽**  
唐から伝来した曲芸・奇術など

**猿 楽**  
滑稽な物真似や軽業気のきいたセリフ

**民間諸芸能**  
今様・白拍子舞 延年・曲舞 など

**能の大成**  
観阿弥・世阿弥  
民間の諸芸能を集大成し、義満の保護のもとに芸術性の高い芸術となる

**狂言の独立**

**豊臣秀吉**  
能楽を愛好し、後援する



能楽が幕府の式楽となり5流派(観世、金春、金剛、宝生、喜多)が確立

**喜多流流祖 喜多七太夫**  
2代將軍秀忠の後援により、一流の創設を認められる。



江戸幕府の崩壊により能楽は一時衰微するが、愛好家の努力により、明治14年に能楽社、後、能楽堂に改組。明治29年、能楽堂を発展させ能楽会を設立し再興を果たす。

昭和18年(社)能楽協会が発足。昭和32年、能楽が重要無形文化財に総合指定され、日本能楽協会が発足

平成13(01)年、能楽が世界無形文化遺産に指定される

**十四世宗家喜多六平太(1874~1971)**  
によって喜多流が再興される



大正3年、2代目**寿太郎**が、新馬場町(今の霞町)に能舞台を建てる(戦災で焼失)



戦後、3代目**久見**が現在の場所に能舞台を再建

昭和33年、能楽教室(現在の定例鑑賞能)を始める

昭和46年能楽堂(現在の喜多流大島能楽堂)を建てなおす

明治維新後、藩お抱え能楽師の家が途絶えたため、藩士であった**大島七太郎**が師の跡を継ぎ、十四世宗家に師事し、備後一円に能楽を普及させる。

福山藩水野家時代には武家の間で、阿部家時代には武家のほか町人の間にも流行し、盛んに演能される。

**水野勝成**が福山城築城時、秀吉ゆかりの組み立て式能舞台を譲り受け、城内や下屋敷で組み立てて演能。(鞆 沼名前神社境内に現存)



沼名前神社能舞台 (福山市鞆町)



沼名前神社能舞台は、豊臣秀吉が移動式能舞台として造ったと伝えられる珍しいものです。福山城築城時に2代將軍徳川秀忠より初代福山藩主・水野勝成が伏見櫓とともに譲り受け、城内や下屋敷などで演能したと伝えられています。そして、三代藩主・水野勝貞が鞆の沼名前神社に寄進し、現在に至っています。この移動式舞台は全国でここだけに残っており、国指定(昭和28年)の重要文化財となっています。

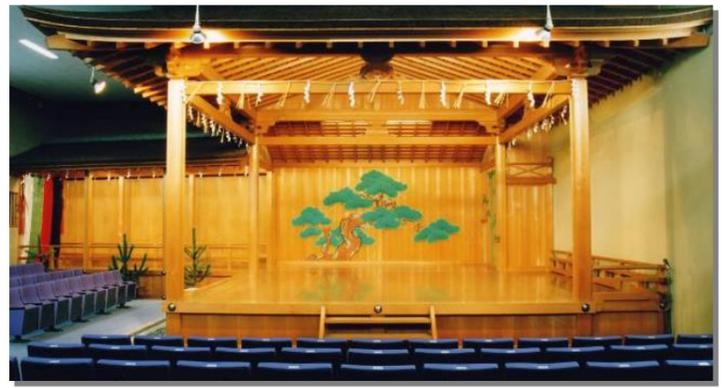
現・備後護国神社 (福山市丸の内) 阿部神社能舞台



江戸時代から昭和21年頃までは能舞台として盛んに使用されていました。現在、橋掛かり、楽屋はなく舞台のみ残っています。

福山と大島家

喜多流大島能楽堂 (福山市光南町)



明治維新後、福山藩士であった大島七太郎が師匠の跡を継ぎ、十四世宗家喜多六平太に師事し、備後地方一円に能楽を普及させました。大正3年、七太郎の長男寿太郎は新馬場町(現 霞町)に能舞台を建て、演能活動を活発に行い、風光明媚な鞆の浦を題材に、新作能「鞆浦」を創作演能しました。その後、寿太郎の三男久見が三代目となり、福山空襲で焼け野原になった福山にいち早く能舞台を再建。昭和46年には、全国的にも珍しい個人での本格的な能楽堂(3階建て、約340席)を建設。平成15年には展示サロン室「櫻木端(かしのきばな)」を設けました。現在、四代目当主・政允を中心に五代目・輝久、衣恵(喜多流初の能楽師)と共に、日本の伝統文化の啓蒙、地方文化の向上、発展に努めています。